

2000年度卒業論文要旨

## デートの社会史

掛札 志保

現在の日本におけるデートは、戦前のそれとは大きく異なっている。筆者は戦後から現在に至るまでのデートの様子を当時の雑誌や小説の記述から探り、さらに戦後の時代の流れをつかむことによって、両者の関係と今に至るまでの変化の軌跡を追った。

1970年代、高度経済成長期の突然の幕切れによりデートは地味で堅実なものが多かったが、80年代に入り、オイルショックを切り抜けてバブルを迎えるに至り、世の中の動向と同じくデートも高級志向でお金をかけるものへと変化した。そして90年代は、氾濫したモノや情報をうまく整理した情報誌の出現により、それを手本とした多様で手軽に楽しめるデートを求める傾向が認められ

た。

デートを大きく変えたのは80年代であり、高級志向やブランド主義を許容するバブルによる経済的余裕がデートにおける高級化や同時にマニュアル化を誘ったということは、当時の雑誌だけでなく小説からもうかがうことができる。

現在の実際のデートの傾向は、お茶大生を対象にしたアンケートにより、二人で楽しむことができ、堅実なものであることが明らかになった。

以上のように、戦後から現在に至るまでのデートの変化には、社会的な動向が密接に関わっており、特にバブルがもたらした影響はその最たるものであった。

## 少子化社会と都会の育児環境——東京都文京区を事例に——

柏 真由実

東京都は全国で最も合計特殊出生率が低い地域である。次世代を担う子どもたちは、自然環境など遊び場の絶対的な不足や、近隣との地域コミュニティが希薄である現代の都会という環境の中で果たして健全な発達ができるのであろうかという疑問を持ち、都市の育児環境、主に保育サービスについて多方面からのアプローチを試みた。

女性の就労増加と相まって、希望の保育所に入れない、待機児童は年々増加の一途である。政府はエンゼルプランにおいて、保育サービスのますますの充実を目標としており、また民間の営利団体が認可保育所を開設できるようにするなど受け皿の拡大をはかっている。

しかし、まだ低年齢児を中心に需要過多である。また保護者の就業形態の多様化とともにニーズも多様になっており、認可保育所ではまかないきれ

ないこれらの細かいニーズに応えているのが、無認可の保育施設である。

無認可園の中でもベビーホテルの増加が著しく、都内にある約120ヶ所のうち半数は過去5年以内にできたものである。中には質的に問題のある施設もあり、報道で話題にもなったが、基本的に待機児童の受け皿としてや、小規模で家庭的な雰囲気求めて需要は多い。

働く女性のみならず、専業主婦にも、子育て支援が必要とされている。文京区では区立の全ての保育園で、子育てに関する悩み相談を実施しており、地域の子育てコミュニティの中核の役割を果たしている。

このように、子育て環境のソフト面は次第に整備されつつあるが、入れ物のハード面は他の産業との兼ね合いもありなかなか理想的な環境にならないのが都会ゆえの難点であろう。